

平成 30 年 2 月 16 日

## 全国農業再生推進機構第 3 回総会 議事概要

### <冒頭>

#### 【全国農業協同組合中央会（以下、全中）】

- 本日はお集りいただき感謝。今日は 4 点について議論したい。
- とりわけ、今日は役員を選任して体制を固めることと、今後はマッチング支援も行う。また、農水省は時間になったら到着するので、報告いただく。
- なお、今総会の開催結果はプレスリリースで公表するので、後ほど確認したい。

#### 【神垣弁護士】

- 公正取引委員をやっていたこともあり、アドバイザーとして参加・協力させていただく。よろしくお願ひしたい。

### <議案 1：新会員の加入について>

#### 【日本惣菜協会】

- 12 月の設立総会にオブザーバーとして参加したが、1 月の理事会で参加が正式に承認されたので、あらたに加入させていただいた。
- 我々の会員は 550 社だが、そのなかにはコメを扱っていない会員もいる。しかし、おにぎり、弁当など米飯類は売上高構成比の 49%を占めており、重要な品目である。今後、業務需要に対応した生産体制や価格の安定に向けて、一緒に取り組んでいきたい。

### <議案 2：規約・規程の制改定および役員を選任について>

#### 【米穀安定供給確保支援機構（以下、米穀機構）】

- 規約 17 条関係、議事の公開について。公開するかどうかは利害得失もあり、いろいろ意見があると理解しているが、心配しているのはこの会が世の中からどう見えるかということだ。
- 1 月 17 日の日経新聞に記事が出た。揶揄的な表現もあり、「非公開で実施した」「独自に入手した議事録よると」「参加を留保している団体も少くない」というように、憶測のような事も含めて出ている。業界紙ならともかく、日経新聞であり国民の相当が見ている。こうした憶測記事が出るのであれば、むしろ公開したほうが良いのではないか。せっかく神垣先生にもアドバイスもいただき公明正大にやっているのに、隠れてやっているという印象を与えることは問題。あらためて公開をお願いしたい。

### 【全中】

- まだ機構は立ち上がったばかりであり、どういう議論が進むか分からない段階。決して公開しないと言っているのではなく、どういう仕事ができるのか見たうえで、対応についてみなさんのご意見を聞いていきたい。性急に物事は進めたくない。
- なお、公開にはリスクがあると思う。またマスコミを呼ぶという事は、事務局の負担や費用など様々な負担がかかる。様々な事を検討したうえで対応してまいりたい。

### 【日本べんとう振興協会】

- 幹事団体の5団体について、生産の方に偏っているのではないか。バランスよく、流通関係や中食・外食とのバランスを考えたほうが良いのではないか。

### 【事務局】

- 幹事団体はこれで固定というわけではない。今後会員も増えていくので、その都度、幹事団体についてご相談する。流通団体が入っていないのは懸念しているが、まだその団体は加入していないため、現時点で参加している団体のなかから選んだ。引き続き団体の構成について、皆さんと考えてまいりたい。

### 【日本炊飯協会】

- 規約17条について、我々も公開すべきだと思っている。冒頭、事務局の説明で、多数が賛成でないと思ったが、本当にそうなのか。我々は公開したほうが良いと表明している。他にもいらっしゃるはずだ。

### 【事務局】

- 団体名は伏せるが、7団体程度から公開すべきでないとの意見をいただいた。一方で賛成は3団体から。まだ正式に全団体へ確認したわけではないが、設立総会の後、年末の時点でお聞きしたところ、そうした意見をいただいている。

### 【全中】

- 公開を単純に否定しているのではなく、よく検討した方が良いと考えている。皆さんの発言が審議会と同様に、ひと言ひと言が責任ある話になり、ICで録音され、それはあとで修正できない。また、外部の相当な大きさの会議室を用意したり、費用がかかる。大手マスコミが来ると、TVカメラも入ってくるし、結構大がかりなオペレーションになる。こうしたことも含めて

幹事団体で議論させていただきたい。費用の問題など様々な課題を検討しないと、オープンにやるというのは、そう簡単ではない。団体を代表する発言になるので、そういう事も含めて皆さんが理解・納得した上でやるのであればできる。再度、幹事会で相談させてほしい。

#### 【全国農業会議所】

- 公開が必要という意見は理解するが、まずは議事録で協議の経過等について、プレスリリースも含めて公開することから始め、体制を整えばそうしたことも考えてもよい。まずは議事録を、確認を取りながら公開していくことから始めてはどうか。

#### 【全中】

- 幹事団体でしっかり議論し報告させてもらうことでよいか。

#### 【国産米使用推進団体協議会】

- 基本的には公開すべきだと考えている。機構の活動目的にもあるが、それぞれの課題や問題を関係者で共有することも意味のある場だと思っている。今後どう課題を解決していくか、生産者も含めて良い環境にすべく議論するわけだから、ガラス張りにすべき。発言内容に責任を負うことを懸念する意見もあるが、それぞれの代表で出席している以上、誰から聞かれても読まれてもよいよう、きちんとした考えを持って発言する。ぜひ公開する方向で検討してほしい。

#### 【全中】

- そうしたことも含め、幹事団体で議論したい。

#### 【炊飯協会】

- 補助事業に応募することも検討するとの説明があったが、販売費は当事者が負担するのは当然のこと。まずは自助努力ありき。そのうえで何かということであればわかるが、補助金獲得という手段のための一環だと、改革していこうというなかで、結局は補助金頼みで工夫が出なくなる。改革に逆行するのではないかと。納得できない。

#### 【事務局】

- 事業計画および予算については後ほど説明する。与党で整理したイメージの中で、マッチングの取り組みを国が支援すると明記されており、推進機構として補助事業の検討は必要と考えている。決して補助金頼みですすめているわけではなく、マッチング以外の取り組みも検討していきたいので、ご理

解いただきたい。

<議案3：需要に応じた生産にかかる情報提供について（農林水産省）>  
質疑なし

<議案4：平成30年度事業計画・収支予算について>

【米穀機構】

- 需要動向調査については、炊飯協会からもあった自助努力による良い取り組みであり、全体的には評価する。
- <参考資料②>の概略の「個別マッチング」について、ビジネスの世界に入り込むことは相当精緻な調整を要する。業務負荷とのバランスが難しいと感じた。
- また、同様に概略に「出来秋以降に作付実績等を確認」とあるが、文言だけ読むと、主食用米の目標配分の実績確認を行い、できの悪い県協議会を指導するようにも読める。表現の問題だと信じたいが、これが公表されると一部マスコミから変な形で報道されかねないのではないか。
- 予算について補助事業への応募を検討するとの説明があったが、補助金を受ける際には組織・経験・財務要件がある。財務要件について一番心配しており、補助金は概算払いも可能と書いてあるが、実際には精算払いになる。つなぎ資金は絶対必要になるので、このあたりをどうするかよく検討しないと、手を挙げたが採択されないということになるので、注意が必要。

【事務局】

- 需要動向調査については課題も多い。個別マッチングの前提として、どこまで精緻な調査ができるか、需要の重複が起きないかなど課題はある。その意味では、意見やアイデアをいただきながら、できるところから取り組んでいきたい。
- 作付実績等の確認について、主食用米の目標配分は全く想定していない。あくまで需要に対し、どういう対応があったか確認をしながら進めていくということ。
- 補助事業の要件についてはご指摘のとおり。先に概算で補助金を受けることは難しいだろうが、当面発生する費用は、事務処理規程にもとづき全中が受託会計で対応する。ご懸念を払しょくできるよう、準備をすすめたい。

【全国米穀工業協同組合】

- 我々は実需者ではなく流通業者の団体であり、組合員ごとに仕事の内容は違う。内部でしっかり本機構についての確認はしていないのだ。事業計画には良いことが多く書いてあるが、本機構で本当にできるのだろうか。とりあ

えず書いただけでしない、売れる米づくりを目指しているのに全国で決めたことが農家まで浸透しない、ということを心配している。次の理事会で、本機構でどのように意見を出すか確認する。

- マッチングについても、現在の事業実施主体である㈱グレイン・エス・ピーが大変苦労している。しかし、本機構では同社に比べて小回りも利かないし財源もないので、どうなるのかという懸念を持っている。

#### 【事務局】

- 今後取り組んでいきたい内容として提案したが、まだ絵に描いた餅という面はある。しかし、需要に応じた生産に向けて、実需者団体・流通業者団体・生産者団体で協力して、できるところから取り組んでいきたい。
- 今年度、㈱グレイン・エス・ピーがマッチングフェアを全国 11 会場で開催しているが、難しい部分があるとも聞いている。会員や構成員に参加いただけるような、より良い取り組みについて検討していきたい。補助事業に応募し取り組んでいくことも検討したい。

#### 【全中】

- さまざまな業界の方からコメ作りについて意見をいただいている。外食・中食について意見をいただいているが、需要に合うコメ作りを進めていきたい。そのために全中、全農、会議所など様々な組織があるので、組織内で情報提供を進め、前向きにやっていきたい。どこまでやれるか心配もあるかと思うが、皆で議論して良いものにしたい。

#### 【炊飯協会】

- 説明に「価格」とあるが、マーケットインでは品質だけでなく価格も重要だ。価格が上がると需要が沈むので、価格は非常に重要だ。需要に合った品質のもの、多収量・多収穫、いかにコストダウンするかという流れだと思う。
- 生産コストを 4 割削減と安倍総理も言ったが、実際にコストダウン出来た後にどうするか、一部は実需者・消費者に還元すべきだが、そうした議論が全くない。消費者から見放されたら需要が成り立たないので、適正価格かどうかの方が大事であるのに、今の米の価格は安すぎるから上げろという議論しかされてない。消費者からみると高すぎるということもある。平等に扱わなければならない。生産コストもどう削減できるか、これは農業者団体でないとできない。主体的な情報共有の取り組みともあるが、多収穫など 1~2 年でできるものではない。作る側でも買う側でも 2~3 年かかる。価格、コストに関する説明責任は問われるので、調査にぜひ盛り込んでいただきたい。

### 【事務局】

- 生産現場では多収の取り組みを推進しているが、実需者と協力しながらやりたい。すぐにできるわけではないだろうが、お互いに理解してやっていきたい。
- 価格は立場によって意見がいろいろあるが、どの価格が良いかという議論に終着点はない。価格は取引によって決まるので、ルールは難しいかと思うが、推進機構では価格安定が目的だと思っている。希望価格帯を示していただくといったことも需要動向調査でできないか考えている。

### 【日本米穀小売商業組合連合会】

- 個別に長年生産者との交流商談をやっている。昔からの、生産者から全農を通じて卸、小売というルートは長年続いていたが、現在はどこが主流か分からない流通の状況だ。
- 本機構で議論されているのは、それぞれ要求、ニーズも団体ごとに異なる。機構がすべてまとめて何かを提供するのか、個々の組合が自分達の考え方で生産者とのマッチングをやるのか、それを支援するのか、そのあたりを決めるとなると時間もかかるし、国も生産調整に関与しないとされているが、30年産の生産には間に合わない。11日にも200名規模で両国で生産者とのマッチングを行ったが、規模の大小もあり生産者も一律ではない。生産者をまわって、付加価値を宣伝しているが、我々が望んでいるのは業務用だということだが、価格はいくらかということ1万5千円。これでは業務用に納めてもらっても、販売する方が儲けがほとんどないくらいになる。
- 具体的に生産者と話し合う機会が少ない。業務用向け品種を提案しても、中々受け入れてもらえない。商品ニーズに合ったコメを作ってほしい。大手の量販店等とルートを持つところでは、通年契約やは種前契約などできるが、小規模の業者はそこまでやれない。個々の組合でやらないといけませんが、努力している人に対してどうやればうまくいくのか、そういうことについてアドバイスいただきたい。

### 【事務局】

- 事業計画にある取り組みで、それぞれ会員団体を支援していきたい。マッチング支援、それぞれの産地と実需者を結びつける場の提供していきたい。
- 需要動向調査も産地にしっかり届くようにニーズを伝え、需要に応じた取り組みとなるよう検討していきたい。

### 【炊飯協会】

- 実需者団体が7、流通団体が7、生産者団体が4と分類できる。それに沿って幹事構成を考えるべきではないか。

**【全中】**

- 早急に幹事会を開いて議論していきたい。

**<議案5：その他>**

**【事務局】**

- 本日の総会内容をプレスリリースする。日時、場所、議事について、また議事については全て了承ということで公表したい。後日、本日の総会について、現在制作中のホームページで公表する。

質疑なし

**【全中】**

- それでは本日 16 時にプレスリリースする。

以上